

四ヶ八景 沖縄

翻訳料金、ゲーム需要増も低水準 1語10~20円

英語以外に注力する企業も

2012/2/13 6:00 | 日本経済新聞 電子版

翻訳ビジネスの需要が多様化している。需要が伸びているのはオンラインゲームなどコンテンツ分野だ。翻訳会社のなかには、日本語からベトナム語など英語以外の言語に力を入れるところも出てきた。

2月初め。ソーシャルゲーム大手のグリーはゲーム開発会社の海外配信を支援すると発表した。翻訳など開発会社の海外進出を支援することで市場を広げ、利用者を増やすのが狙い。すでにグリーでゲームを配信している開発会社からも具体的に海外進出の相談を受けているという。

同社は昨年9月、社内に自社開発ゲームを外国語に翻訳する「ローカライズ(現地化)」部門をつくった。海外向け配信で市場を広げるのが狙いだ。「言葉が不自然だとゲームを楽しむ障害になる」(同社でローカライズを担当するチームの永井ジョナ勝マネージャー)ため、言い回しなど品質にもこだわる。中国などのゲームを日本語に翻訳するケースも増えている。

ゲームの翻訳市場はまだ小さいものの、急速に伸びている。産業翻訳大手の翻訳センターは2010年からオンラインゲームの翻訳依頼が増加。ゲームを含むメディアコンテンツの翻訳は06年にはゼロだったが、今では売上高の2~3%を占めるようになった。同社は欧米向けに輸出されるマンガやアニメ、カードゲームの翻訳を手がけるため米国に子会社を作るなどして事業を立ち上げた。その後家庭用ゲーム機器向けソフトの翻訳に対象を広げた。「今、依頼が増えているのはオンラインゲーム分野」(翻訳センター)という。オンラインゲームの翻訳でも、これまで中国や韓国の開発会社のゲームを日本語にする案件が多かったが、最近は日本語のゲームを英語などに翻訳するケースが目立つという。他にもゲーム翻訳を専業で手がける翻訳会社もしてきた。国内の翻訳会社の場合、1語あたりの単価は差があるが、10~20円前後のところが多いようだ。利用者が違和感を抱かないような高品質の翻訳を頼むと料金はやや高めになる。

ただ、ゲームなどコンテンツ類の翻訳単価は他の産業分野に比べると低水準で、特許などの技術翻訳の半額程度だ。作品のファンなど翻訳希望者が多いうえ、ゲーム開発会社からのコスト削減要求も厳しいためだ。日本語から英語に翻訳する場合、海外の翻訳会社との競争もある。このためゲーム分野を手がける翻訳会社は、ゲームの内容や表現を輸出先の国の文化に合わせるローカライズも合わせて請け負うことが多い。

翻訳センターもゲーム開発会社とキャラクターの性格付けなどまで打ち合わせし、セリフの話し方までチェックする体制を整えている。開発会社に対し、キャラクターの着る服の色や振る舞いが、輸出先の国の文化と衝突しないかを確認し、必要であれば相手企業に見直しを提案することもある。

翻訳市場全体を見渡すと、IT(情報技術)分野の単価下落が著しい。ITバブルが起きた00年前後は1語30円程度だったが、足元は20~25円に下がっている。

特許分野も単価が下がっている。メーカーなどが欧米や中国で特許申請するケースが増えていた08年ごろまでは1語40円台後半を推移していたが、リーマン・ショック後に約2割値下がりした。

今後は英語以外の外国語への翻訳が増えそうだ。技術翻訳などを手がけて50年近くになるジェスコーポレーション(横浜市)の丸山均社長は「最近はベトナム語への翻訳依頼が増えている」と話す。同社は10年にベトナムを拠点とする翻訳会社と提携し、注文増に対

産業翻訳の単価

分野名	翻訳言語	単価
工業分野	日本語→英語	15~25円／1語
	英語→日本語	25~30円／1単語
	日本語→中国語	15円前後／1語
	中国語→日本語	20円前後／1語
特許	日本語→英語	25~35円／1語



グリーが配信する、中国メーカーが開発したソーシャルゲーム(C) Hoolai Game Limited

応できるようにした。最近は高い技術を持った中小企業が現地の拠点作りに必要な書類の翻訳を依頼する例が増えている。翻訳市場のすそ野が広がりそうだ。

(商品部 岩本貴子)

	英語→日本語	25~35円／1単語
医薬	日本語→英語	40円前後／1語
	英語→日本語	40円前後／1単語
ゲームなどメディア コンテンツ	日本語→英語	10~20円／1語

※品質や量によって差は大きい

NIKKEI Copyright © 2012 Nikkei Inc. All rights reserved.

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。